

言葉で感じる季節

冬日向

ふゆひなた

昼間の時間の最も短い冬至、その前後も日脚が短く、太陽の日差しが弱い時期、寒さが一段と厳しい日。この冬の日の当たる場所を「冬日向」といいます。冬の日差しは強くはありませんが、冬の日だまりは暖かくて優しい感じがします。

陽が登り、霜が溶け始める頃、
艶やかな様子がすれど、
冬の季節はさらさら、
畑で感じられるお顔。

昨年の今頃は暖冬だったなあと。今回の冬の寒さに、朝からなかなか身体も温まりにくい日々から思い返し感じます。とはいえ、あと少しで訪れる春の季節。楽しみです。

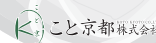
古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

NO.177

2022年2月号

TEL: 075-601-0668



KOTO GROUP
4A

冬葱

今月の ことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

いつもより手間をかけた旬の冬葱のお届けです

主に市内と亀岡の産地で昨年の秋頃に定植し、冬を過ごしたねぎたちのお届け。夏頃の苗作りに苦戦し、定植した苗が弱くて消えてしまい植え直す作業が多くありました。そして今回の厳しい寒さの中では、気温も上がらず生育が止まってしまう状況になったり。少しでも背丈を伸ばし成長してもらう為に、

いつも以上に管理の面で手間がかかった冬葱です。凍てつく寒さのおかげで甘く、太く、重みのある美味しいねぎができました。まだまだ旬の九条ねぎ、お楽しみください。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信

寒い中での生育管理の難しさ

今年は霜対策として、厚めのビニールをねぎに被して、できるだけ暖かくするようにしましたが、京都市でも積雪が観測させるほどの寒波・寒さが厳しい冬になりました。日中の気温もほとんど上がらず、生育が止まる状況になりますが、少しでも成長してもらおうと合間をみて、ビニールを外して葉面追肥を行い、養分を与えて、生育促進を図りました。いつもであれば、被覆したあとはほとんど手をかけることはありませんでしたが、いつも以上に手間のかかりました。

朝はねぎが霜で凍っており、収穫作業は日が登り溶けるまで待つ日が続いています。限られた時間の中で収穫をしなければいけないので、いつもは別々に作業している農人が協力し合ってみなで一気に収穫！大人数が集まる機会となり賑やかで楽しく作業ができています。

とある日の農人日記。

積雪40cmの美山では、畑はお休みですがハウスで育苗中。ハウス内は半袖でも過ごせるほど暖かく、朝には芽が出ていなかったねぎもニョキニョキと産声が。作物を育てている中で、感動する瞬間の一つです。（羽座）



／ ねぎの小さな産声 ／